

思いをわかち合うために (協力)

ねらい

ひとりの思いなんて小さなもの、そんな思いは時にあきらめや無責任につながっている事が多い。しかし、すべての変化はひとりひとりが声を発して協力をよびかけてこそ始まるもの。

自発的に行なわれている市民活動というものに焦点をあて、ひとりひとりの思いが地域に、世界につながり、協力することによって変わっていくことができることを意識すると共に、それらを実現していくための方法を学んでほしい。

学習者の目標

知識

- 平野長蔵氏の思いから発足した「尾瀬の自然保護運動」や、「対人地雷禁止運動」などの市民の思いが社会を動かした事例について知る。

技能

- 協力を呼びかけるプロセスの中で、どんな事をしてきたか、しなければならぬかを知り、思いを共有するためには、どんな工夫が必要なのか見つけだす事ができる。

態度

- 身近な問題で、お互いが協力してこそ始めて実現できるものを見つけだし、そのプロセスにおいて協力する事の意義やその方法について具体的に提案できるようにする。

対 象 小学校高学年以上

学習計画

総時間
10
時間

	内 容	時間	主 な 手 法
1	長蔵小屋からメッセージを送り続けた人々	2	ブレインストーミング
2	尾瀬の自然保護運動から学ぼう	2	インターネット・図書、タイムライン
3	世界規模での協力にはどんなものがあるのかな?	2	インターネット、図書
4	協力は国境を越えて	1	図作成
5	協力するってどういうこと?	1	シミュレーションゲーム
6	思いをわかち合うために	2	

学習案

1 長蔵小屋からメッセージを送り続けた人々 (2時間) (主な手法：ブレインストーミング)

1. 「守る、尾瀬の自然を」(光村図書 小学校6年国語教材)を読む。
2. 文章を読んだあと、グループに分かれて話し合う。

教師からの 問いかけ例

- 平野長靖さんを強くつき動かしたものは何だっただろうか？
- 吹雪に倒れた長靖さんの意志は、どんな形で誰が見つないでいくべきなのだろうか？

3. 「もし、『守る会』をひきついでとしたら、どんな協力を誰に呼び掛けることができるのか」について、ブレインストーミングを使ってグループごとに計画をつくってみる。(→「ブレインストーミング」P63)



文章……<http://www.at.sakura.ne.jp/~erminea/oze/mamoru.html>
写真……<http://www2.wind.ne.jp/nagaou/oze/hiranoikka/hiranoikka.htm>
長蔵小屋のホームページ……<http://www3.ocn.ne.jp/~chozo/>

2 尾瀬の自然保護運動から学ぼう (2時間) (主な手法：インターネット・図書、タイムライン)

1. 実際にこれまでにどんな協力をよびかける活動が行われたのか、インターネットや各種資料などを通して調べ、自分達が考えたプランと実際に行われてきた道のりを比べてみる。(→「インターネット」P61)
2. 協力をよびかけた村人、建設業者、電気供給会社、環境省、観光客、それぞれの協力をを行った人々の範囲図の表を作成する。(すべての変化にはひとりひとりの思いが大きくかかわっていく事を学ぶ。)
3. 人々の運動により、どんなふうにも尾瀬をとりまく状況が変わっていったか年表にまとめる。また、それらの運動が行われていなかった場合の「もしも、していなかったら尾瀬はこうなっていた」という表をタイムラインを使って書く。(→「タイムライン」P67)



尾瀬保護財団のホームページ……<http://www.oze-fnd.or.jp/frmain.html>
尾瀬自然保護指導員ネットワークのホームページ……<http://www.futaba.ne.jp/~smtmt/oze.html>
尾瀬を守る 自然保護運動25年の歩み……(上毛文庫39 尾瀬の自然を守る会(編さん) 1997年 ¥1,400)
ノンフィクション・ワールド尾瀬をまもる人びと 長蔵小屋の三代……(大日本図書 後藤允(著) 1995年 ¥1,262)

3 世界規模での協力は、どんなものがあるのかな? (2時間) (主な手法：インターネット、図書)

1. 「対人地雷禁止条約キャンペーン(ICBL)」でのノーベル平和賞を受賞したジョディ・ウィリアムズ氏とICBLの活動を通して、「対人地雷禁止条約調印」までの道のりをたどり、世界規模での協力の実現例を調べる。(→「インターネット」P61)
2. ICBLは、どんな方法で思いを世界の人々に効果的に伝えているのか調べる。
3. 調べた結果について話し合う。

教師からの 問いかけ例

- ポスター、CD、絵本、標語などがあったかどうか？
- 協力した有名人や音楽家らはどこに共感して参加協力するようになったのか？
- これらの効果はどんなところにあるのか？



- 受賞関連ニュース……<http://www.yomiuri.co.jp/yomidatas/konojune/97/97nw10.htm>
http://www.nhk.or.jp/kdns/_wakaran/97/1019.html
 経歴……<http://www.senshu-u.ac.jp/School/keizai/newproject/NPO/npo1999.htm>
 スピーチ……<http://www.acc.senshu-u.ac.jp/koho/news-2-11-16-jyodi.html>
 地雷一般……<http://www.masayo.org/angel/>
 ICBLの日本での団体JCBL……<http://www.jca.ax.apc.org/~banmines/>
 TBS地雷ゼロキャンペーン……<http://www.tbs.co.jp/zero/>
 地雷ゼロキャンペーンソング……http://new_night_2.tripod.co.jp/zero_landmine.htm

4 協力は国境を超えて (1時間) (主な手法：図作成)

- 3で調べたことを尾瀬のケースと同じように協力の範囲図に書き出していき（最後が世界の国々になり、批准する国、しない国がある事に気づく）。
- 協力している国、していない国を書き出してみる。
- 対人地雷禁止の他に、世界規模で協力しなければならないを思う問題をいくつかグループごとにあげてみる。

5 協力するってどういうこと? (1時間) (主な手法：シミュレーションゲーム)

協力に必要なものは何なのかを模擬体験を通じて考える。

(以下、『ワールド・スタディーズ (P84~86)』(国際理解教育センター発行) を引用)

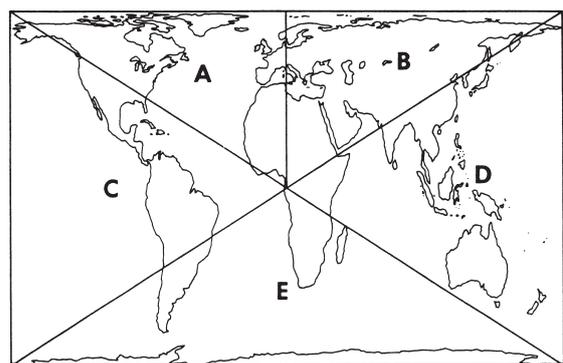
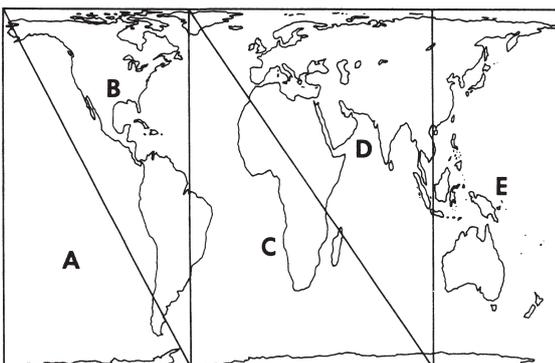
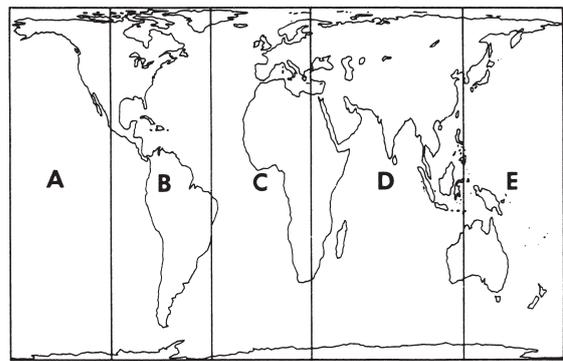
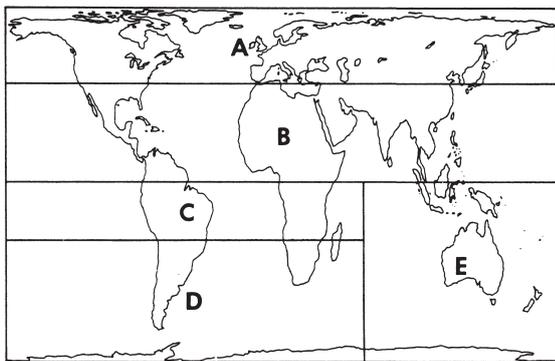


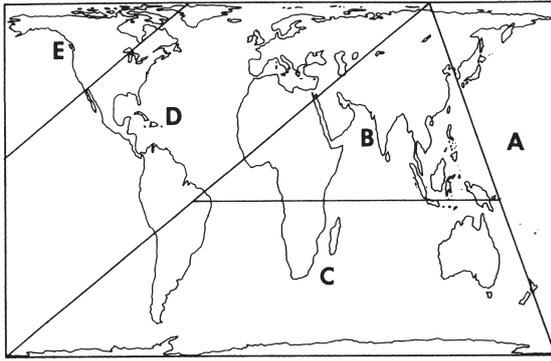
(35人クラスの場合、5人一組で7つのグループになる。)

世界地図を5枚用意し、それぞれA, B, C, D, Eと5つに切り離す。

切り離したものを記号ごとにまとめ、同じ記号が書かれた封筒それぞれに入れる。

これを7セット分作る。





進め方

1. 子どもたちはグループごとに分かれて座り、教師からグループ毎に封筒一セット（それぞれにA,B,C,D,E,Fと書かれた5つの封筒）を受け取る（各グループ全員が1つずつ封筒を持つことになる）。
2. 説明を聞く。
「封筒には世界地図の断片が入っています。グループ毎に5枚の世界地図を完成させてください。グループの全員が1枚ずつ地図を完成させることができたら終わりです。ただし、条件は次のとおりです。」
 - ・ゲームの間は話しをしたり、合図をしたりしないこと。
 - ・他の人が持っている断片を絶対に取り上げないこと。
 - ・他の人が探しているのが自分の持っている断片だと思った時に渡してあげるのはかまわない。
3. ゲーム終了後、活動について振り返る。

教師からの 問いかけ例

- やってみてどうだったか？
- 自分の地図が完成していない時に、他の人の気持ちになって考えてみる事ができたか？
- グループ全員が完成させられるよう、全体に気を配っていたか？
- グループが違う人を、競争相手ではなく同じ課題に取り組む相手としてとらえる事ができたか？
- 誰かが自分の探している断片を渡してくれた時は、どんな気持ちでしたか？
- 私たちの生活の中で、今したゲームと同じようなことをしていることはないか？

6 思いをわかち合うために（2時間）

1. 協力するために必要な視点は何だっただろうか。今までの学習を振り返ると共に、協力しなければ実現できないと思う身近な問題を考える。
2. 具体的な対象が決まったら、思いを共有するためのメッセージを伝えてみよう。「クラスの課題」「地域の課題」「世界の課題」などその協力の範囲ごとに対象を絞り、ポスターや、キャンペーンソング、絵本などを効果的に作ってみる。

発展

- 1 2 3 で調べた活動について、クラスでどんな協力ができるかを考え、実際に取り組んでみる。